

令和7年度

「運営に関する計画」

最終評価

大阪市立東我孫子中学校

令和8年2月

大阪市教育振興基本計画における基本理念

全ての子どもが心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓く力を備え、健やかに成長し、自立した個人として自己を確立することをめざします。

あわせて、グローバル化が進展した世界において、多様な人々と協働しながら持続可能な社会を創造し、その担い手となることをめざします。

学校教育目標

主体的に学び、互いに尊重し合える生徒集団の育成

本校のめざす学校像

- ・個を認め、ともに高めあう集団の育成
- ・夢や志を高くもち、主体的に取り組む生徒の育成
- ・将来をたくましく生き抜く学力・体力・人間力を伸ばす教育活動の推進
- ・地域の中の一員としての成長を期待される学校

本校のめざす子ども像

- ・積極的に挨拶のできる生徒
- ・自ら学ぶ生徒
- ・思いやりのある生徒
- ・最後まで粘り強く取り組む生徒



目標達成に向けた教育方針

1. すべての教育活動において、自他の人権尊重の精神を実践する態度を育てる。
2. 基礎学力の向上につとめ、教育活動の多様な創意工夫によって、主体的に学習する態度を育てる。
3. 障がいのある仲間との交流を通して、互いに違いを認め合い、支えあう集団を育成する。
4. 生徒理解を通して、生徒・教職員相互のふれあいと信頼を深める。
5. うるおいのある学校環境づくりにつとめる。

大阪市立東我孫子中学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価 (総括シート)

1 学校運営の中期目標

現状と課題

全体的に落ち着いた状況の中で、授業、学校行事、部活動などの教育活動が着実に進められている。器物破損や暴力行為などはほとんど見られない。友だち間のトラブルが発生した場合も早期対応を心がけ、解決に導いている。生徒会活動では、清掃活動や挨拶運動にも積極的に取り組む様子が見られる。しかし、基本的な生活習慣では、朝ごはんの喫食率がやや低く、家庭との連携をより重視しなければならない。また、不登校生徒や背景的な要因に課題のある生徒も年々増加傾向にあり、担任だけでなく学年を中心とした複数の教員が関わっているが、区のスクールソーシャルワーカーや関係諸機関とも連携したきめ細やかな対応を進めていく必要がある。

学習面では、基礎基本の定着を重視するとともに、ICT機器等を活用したわかりやすい授業や班活動等を活用し、生徒が主体的に取り組む授業をめざしているが、よりいっそうの授業改善が求められるところである。

また、「チャレンジテスト」や3年生の「全国学力・学習状況調査」、「大阪市英語力調査」の結果を分析し、課題を全教員で共有することで、生徒の学力向上が期待できる。確かな学力の定着に向けて、生徒のやる気をより引き出す授業の創造、家庭学習や補充学習の充実を図る必要がある。

人権学習やキャリア教育等の取り組みでは、違いを認め合い、自他の大切さに気づき、自尊感情を高めるために、体験を重視した取り組みが大切であると考えている。今後は、さまざまな状況を踏まえて、創意・工夫した取り組みが行えるよう推進する。

中期目標

【安全・安心な教育の推進】

○校内アンケートの結果において、次の各項目について、「あてはまる」「どちらかといえばあてはまる」と肯定的に回答する生徒の割合を、次の数値を目標として取り組む。

- ・「学校のきまり、規則を守っている」 95%以上 (94%) → 97%
- ・「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う」 98%以上 (96%) → 97%
- ・「自分にはよいところがあると思う」 75%以上 (79%) → 75%
- ・「人が困っているときは、進んで助けている」 90%以上 (94%) → 92%

○校内アンケートを活用し、いじめ事案の発生に素早く対応し、「解決していないいじめ事案」をゼロにする。

○暴力行為(体罰、暴言も含む)を起こさない学校づくりを進める。

○生徒への柔軟な対応のもとに、不登校生の割合を全体の5%以下をめざす。(9.9%) → 6.6%(2学期29人)

○定期(年2回以上)の避難訓練や防災訓練を通して防災意識を毎年高め、地域とともに歩む防災・減災計画に参画する。

○3年間の系統立てたキャリア教育を工夫・推進し生徒の適切な進路選択を指導する。「将来の夢や目標を持っている」「自分の将来のこと(進路)や生き方について考えている」について肯定的に回答する生徒の割合を75%以上にする。(72%) → 65%

○生徒一人ひとり、とりわけ支援を要する生徒の情報交換を密にし、インクルーシブ教育への教職員全体の共通認識と理解をめざし、個に応じた指導を組織的に行い、進路や自立に結びつける。

○調べ学習や読書活動など主体的な学習意欲の場となるよう学校図書館教育の充実をはかり、図書館活用率(開館日あたりの利用者数)を前年度より向上させる。(24人) → 28人

○芸術や伝統文化等に複数回触れ、体験することによって生徒一人ひとりの豊かな感性を磨く。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

○校内アンケートの結果において、次の各項目について、「あてはまる」「どちらかといえばあてはまる」と肯定的に回答する生徒の割合を、次の数値を目標として取り組む。

- ・「自分で計画を立てて勉強をしている」 65%以上 (68%) → 63%
- ・「家庭学習(宿題、予習、復習)をしている」 75%以上 (72%) → 67%
- ・「授業の内容はよくわかる」「授業は楽しい」 75%以上 (79%) → 79%
- ・「朝食を毎日食べている」 95%以上 (85%) → 88%
- ・「毎日同じ位の時間に寝ている、起きている」 85%以上 (71%) → 77%
- ・「体力に自信がある」 60%以上 (49%) → 52%

○全国体力、運動能力、運動習慣調査での体力合計点において、全種目を全国平均点以上をめざす。

○すべての教科において、ICTを活用する時間を計画的に設定し「わかりやすい授業」をめざす。

○理数教育においては、課題発見・解決力、論理的思考能力の育成を図る。

○グローバル社会で通用するコミュニケーション能力の育成に努め、3年生で55%以上の生徒が英検3級程度以上の英語力を有するように英語教育の充実を図る。(43.5%)

○健康的な生活習慣、食育活動(給食も含む)の推進とともに現代的課題(喫煙、飲酒、薬物乱用、感染症、生活習慣病、心の健康等)に対して、生徒一人ひとりが高い意識を持ち、健康の保持増進に努める。

【学びを支える教育環境の充実】

○ICTの活用に関する目標

- ・令和7年度末の校内調査の「日々の学校活動の中で学習者用端末を活用している」の項目について、「ほぼ毎日」と答える生徒の割合を、100%にする。(86%) → 91%
- ・デジタル教材を活用した学習(家庭学習を含む)を、週2回以上実施する。

○教職員の働き方改革に関する目標

- ・年次休暇を10日以上取得する教職員の割合を30%以上にする。73.0%(1月末)
- ・ゆとりの日を月1回設定し、実施する。
- ・「直近2~6か月の時間外勤務の平均が月80時間を超えない」を満たす教職員の割合を60%以上にする。(84%) → 82%(12月まで)

2 中期目標の達成に向けた年度目標（全市共通目標を含む）

【安全・安心な教育の推進】

○年度末の校内調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を90%以上にする。（83%）→ 80%

○年度末の校内調査において、不登校生徒の在籍比率を前年度より減少させる。（9.9%）→ 6.6%（2学期29人）

○年度末の校内調査において、前年度不登校生徒の改善の割合を増加させる。

【学校園の年度目標】

○校内アンケートにおいて、次の各項目について、肯定的な回答をする生徒の割合を次のようにめざす。

- ・「学校のきまり、規則を守っている」 95%以上（94%）→ 97%
- ・「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う」 98%以上（96%）→ 97%
- ・「自分にはよいところがあると思う」 70%以上（79%）→ 75%
- ・「人が困っているときは、進んで助けている」 85%以上（94%）→ 92%

○校内調査を活用し、いじめ事案の発生に素早く対応し、「解決していない『いじめ事案』」をゼロにする。

○暴力行為（体罰、暴言を含む）の発生をゼロにする。

○生徒への柔軟な対応のもとに、不登校生の割合を全体の10%以下をめざす。（9.9%）→ 6.6%（2学期29人）

○定期（年2回以上）の避難訓練や防災訓練を通して防災意識を高め、防災・減災計画に参画する。

○3年間の系統立てたキャリア教育を工夫・推進し、生徒の適切な進路選択を指導し、校内アンケートにおいて、「将来の夢や目標を持っている」「自分の将来のこと（進路）や生き方について考えている」と肯定的に回答する生徒の割合を70%以上にする。（72%）→ 65%

○生徒一人ひとり、とりわけ支援を要する生徒の情報交換を密にし、インクルーシブ教育への教職員全体の共通認識と理解を充実させ、個に応じた指導を組織的に行い、進路や自立に結びつける。

○学校図書館教育の充実をはかり、図書館活用率（開館日あたりの利用者数）を前年度より向上させる。（24人）→ 28人

○「特別の教科・道徳」の授業と評価の充実をめざす。

○学校生活を意欲的に過ごす生徒を増やす。積極的に挨拶を行う生徒の割合を90%以上にする。（87%）→ 81%

○芸術や伝統文化等に複数回触れ、体験することによって生徒一人ひとりの豊かな感性を磨く。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

○校内調査における「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を40%以上にする。（50%）→ 36.7%

○中学生チャレンジテストにおける国語および数学の平均点の対称比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より0.01ポイント向上させる。（R6実施分 現2年 国語：0.97 数学：1.01 現3年 国語：0.87 数学：1.01）

→（R7実施分 現2年 国語：未実施 数学：未実施 現3年 国語：0.90 数学：0.97）

○大阪市英語力調査におけるCEFR A1 レベル相当以上の英語力を有する中学3年生の割合（4技能）を55%以上にする。（43.5%）

○年度末の校内調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する生徒の割合を30%以上にする。（48.8%）→ 55.0%

【学校園の年度目標】

○校内アンケートの結果において、次の各項目について、肯定的な回答する生徒の割合を次のようにめざす。

- ・「自分で計画を立てて勉強をしている」 65%以上（68%）→ 63%
- ・「家庭学習（宿題、予習、復習）をしている」 70%以上（72%）→ 67%
- ・「授業の内容はよくわかる」「授業は楽しい」 75%以上（79%）→ 79%
- ・「朝食を毎日食べている」 85%以上（85%）→ 88%
- ・「毎日同じ位の時間に寝ている、起きている」 70%以上（71%）→ 77%
- ・「体力に自信がある」 60%以上（49%）→ 52%

○20mシャトルランにおいて、各自記録を向上させる。

○情報環境の整備に努め、一人一台端末の積極的活用を図り、生徒の学習意欲向上に繋げる。

○理数教育においては、課題発見・解決力、論理的思考能力の育成を図る。

○卒業時に50%以上の生徒が英検3級程度以上の英語力を有するように小中連携した英語教育を進める。（58.5%）→ 43.5%

○生徒一人ひとりが健康と食育に対し高い意識を持ち、健康の保持増進について考える力の育成をはかる。

【学びを支える教育環境の充実】

【ICT】○授業日において、生徒の8割以上が学習者端末を活用した日数が年間授業日の75%以上にする。（ただし、事務局が定める学校行事等ICT活用が適さない日数を除く）→7.5%（12月まで）

○教員の生徒のICT活用を指導する能力に対して、「指導できる」と肯定的に回答する割合を80%以上にする。

【働き方改革】○第2期「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間上限に関する基準Iを満たす教員の割合を75%以上にする。→47.06%（12月まで） ※基準I：1か月の時間外勤務45時間以内

【学校園の年度目標】

【ICT】○年度末の校内調査の「日々の学校活動の中で学習者用端末を活用している」の項目について、「ほぼ毎日」と答える生徒の割合を、75%以上にする。（86%）→ 91%

○デジタル教材を活用した学習（家庭学習を含む）を、週1回以上実施する。

【働き方改革】○年次休暇を10日以上取得する教職員の割合を20%以上にする。→ 73.0%（1月末まで）

○ゆとりの日を月1回設定し、実施する。

○「直近2～6か月の時間外勤務の平均が月80時間を超えない」を満たす教職員の割合を60%以上にする。

（84%）→ 82%（12月まで）

3 本年度の自己評価結果の総括

大阪市教育振興計画（第2期）に基づいて、中期目標の達成に向けた学校運営を本校の現状と課題に即し推進した。

学校全体が落ち着いた環境にあり、規範意識の醸成がなされていて、生活指導面での大きな問題行動は少なく、生徒間のトラブル等が発生した場合も各学年を中心に解決ができています。このため【安全・安心な教育の推進】で設定した中期目標及び年度目標もほぼ達成できている現状である。しかし、一方では基本的な生活習慣の欠如が原因となり、多くの課題をもつ生徒が増えている。このためこども相談センターを含め様々な関係諸機関と連携しながら対応するケースも増加している。また、様々な事情から、不登校となる生徒も年々増加傾向にあり、その内容が多様化している。今年度も小学生の時から早い段階での不登校傾向が始まっているケースがみられた。担任だけでなく学年を中心に複数の教員が関わっているが、生徒の個々の状況を把握し、学校と保護者、生活指導支援員、スクールカウンセラーや地域、及び関係諸機関との連携を密にし、きめ細かい対応をさらに進めていく必要がある。

学力向上への取り組みについては、学力テスト等外部のテストでは府平均よりも特に3年生が低い状態ではあるが、日々の授業の確立が一定の学力維持につながっている。どの教科も、基礎・基本の定着を重視するとともに、ICT機器を活用した授業改善を行ってきた。各教科の授業では主にペアワークやグループ学習で活用されている。生徒端末の持ち帰り学習を開始した学年もある。来年度は生徒端末を全学年で持ち帰りを宿題など家庭学習に活用する予定である。また今年度も引き続き、英語を中心に「学力向上推進事業」に取り組み、教員の研究授業を定期的実施し、専門教員の指導による授業改善と工夫を重ねた。アンケートなどで一定の効果が見られる。全体的には学習の成果が見られるが、理解到達度が低い生徒の状況を把握して、やる気を引き出す授業の創造、個に応じた学習の推進、さらに家庭学習や補充学習の充実を図る必要がある。

本校の「めざす子ども像」実現に向けた教育の実践に全教職員が取り組んできた。特別支援教育、人権教育等を通じて、違いを認め合い、人を思いやる生徒の育成を継続していく。また、職場体験などのキャリア教育を通じて、将来の目標をもって意欲的に学ぶ生徒の育成に努めた。今後の課題でもある生徒の自尊感情をより高めるためにも、生徒の自主性を伸ばすとともに、学習、運動、学校行事などに達成感をもって取り組める生徒が増えるよう努めていく。

また、小中連携の取り組みや防災関係の取り組みなど地域との連携した取り組み強化している。

教職員の資質向上について、昨今のさまざまな課題に即した新たな教育を推進するためには、教職員の意識変革が必要である。知識や技能を自律的に習得するために、研究授業や公開授業、研修の機会を増やす。そして、多様な専門性を持つ人材を効果的に配置し、分担させることで組織的・協働的に取り組める学校運営をめざす。

大阪市立東我孫子中学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価 (目標別シート)

評価基準 A:目標を上回って達成した B:目標どおりに達成した
C:取り組んだが目標を達成できなかった D:ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【最重要目標1 安全・安心な教育の推進】</p> <p>○年度末の校内調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を90%以上にする。(83%) → 80%</p> <p>○年度末の校内調査において、不登校生徒の在籍比率を前年度より減少させる。(11.0%) → (9.9%) → 6.6%</p> <p>○年度末の校内調査において、前年度不登校生徒の改善の割合を増加させる。</p> <p>【学校園の年度目標】</p> <p>○校内アンケートにおける次の各項目について、肯定的な回答をする生徒の割合を次のようにめざす。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「学校のきまり、規則を守っている」 95%以上 (94%) → 97% ・「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う」 98%以上 (96%) → 97% ・「自分にはよいところがあると思う」 70%以上 (79%) → 75% ・「人が困っているときは、進んで助けている」 85%以上 (84%) → 92% <p>○校内調査を活用し、いじめ事案の発生に素早く対応し、「解決していない『いじめ事案』」をゼロにする。</p> <p>○暴力行為(体罰、暴言も含む)の発生をゼロにする。(8件) → 6件(2学期)</p> <p>○生徒への柔軟な対応のもとに、不登校生徒の割合を全体の10%以下をめざす。(9.9%) → 6.6%(2学期29人)</p> <p>○定期(年2回以上)の避難訓練や防災訓練を通して防災意識を高め、防災・減災計画に参画する。</p> <p>○3年間の系統立てたキャリア教育を工夫・推進し、生徒の適切な進路選択を指導し、校内アンケートにおいて、「将来の夢や目標を持っている」「自分の将来のこと(進路)や生き方について考えている」と肯定的に回答する生徒の割合を70%以上にする。(72%) → 65%</p> <p>○生徒一人ひとり、とりわけ支援を要する生徒の情報交換を密にし、インクルーシブ教育への教職員全体の共通認識と理解を充実させ、個に応じた指導を組織的に行い、進路や自立に結びつける。</p> <p>○調べ学習や読書活動など主体的な学習意欲の場となるよう学校図書館教育の充実をはかり、図書館活用率(開館日あたりの利用者数)を前年度より向上させる。(24人) → 28人</p> <p>○「特別の教科・道徳」の授業と評価の充実をめざす。</p> <p>○学校生活を意欲的に過ごす生徒を増やす。積極的に挨拶を行う生徒の割合を80%以上にする。(87%) → 81%</p> <p>○芸術や伝統文化等に複数回触れ、体験することによって生徒一人ひとりの豊かな感性を磨く</p>	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現】</p> <p>日々の生徒観察や相談活動を基本に、定例の教育相談(2回)、学期末懇談(2回)、生徒アンケート(3回)を実施する。さらに、気になる事案が発生した際は、教育相談、家庭訪問を積極的に行い、教職員どうしの情報共有を図ることで改善に向けて取り組む。</p> <p>[指標] 年度末の校内調査における「いじめ」の件数を前年度より減少させる。</p>	B
<p>取組内容②【基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現】</p> <p>日々の生徒観察を欠かすことなく、気になる状況が見られるときは、保護者との連携、教職員どうしの情報共有を図ることで、早期対応を心がける。</p> <p>[指標] 年度末の校内調査における「不登校」の生徒の割合を、前年度より減少させる。</p>	B
<p>取組内容③【基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現】</p> <p>学校・学年で協力して取り組む行事や部活動の充実を図り、学校生活を生き生きと意欲的に過ごす生徒を増やす。</p> <p>[指標] 年度末の生徒アンケートにおける「学校に行くのが楽しい」「文化祭や体育大会などの学校行事や部活動に熱心に取り組んでいる」の項目に対して、肯定的に回答する生徒の割合を前年度より増やす。</p>	B

<p>取組内容④【基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現】</p> <p>「学校安心ルール」を基本とした指導のもと、身なり決まり研修会を実施し、全教職員の共通理解を図り、決まりを守る姿勢を確立させる。</p> <p>[指標] 年度末の校内アンケートにおける「学校の決まり、規則を守っている」の項目に対し、肯定的な回答をする生徒の割合を前年度より増やす。</p>	B
<p>取組内容⑤【基本的な方向2 豊かな心の育成】</p> <p>「障がい」者問題、国際理解教育、社会問題など、人権にかかわる取り組みを各学年で計画的に行い、人権意識を高める。特に、外部講師を招くことで生徒の体験的理解を深める。</p> <p>[指標] 年度末の校内アンケートにおける「学校では、人権の大切さについて学ぶ機会が多い」の項目に対し、肯定的な回答をする生徒の割合を90%以上にする。</p>	B
<p>取組内容⑥【基本的な方向2 豊かな心の育成】</p> <p>平和学習や人権学習を通じて、自他ともに命を大切にすることを育成する。特に、外部講師を招くことで生徒の体験的理解を深める。また、「平和新聞」の作成を通じて、命の尊さについて学ぶ。</p> <p>[指標] 年度末の校内アンケートにおける「学校では、命の大切さや社会のルールについて学ぶことが多い」の項目に対し、肯定的な回答をする生徒の割合を前年度より増やす。</p>	B
<p>取組内容⑦【基本的な方向2 豊かな心の育成】</p> <p>各学年のキャリア教育の指針に従い、進路学習、職業講話、職業体験を実施する。将来を見据えた職業観や進路に対する意識を成長させる。</p> <p>[指標] 年度末の校内アンケートにおける「自分には良いところがある」「自分の将来のことや生き方について考えている。将来の夢や目標を持っている」の項目に対し、肯定的な回答をする生徒の割合を前年度より増やす。</p>	B
<p>取組内容⑧【基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現】</p> <p>年2回以上の避難・消火訓練や防災訓練を実施し、防災への意識を高める。地域とともに、防災・減災訓練計画に取り組む。</p> <p>[指標] 年度末の校内アンケートにおける「事件や事故、災害が発生したとき、どうしたらよいかわかっている」の項目に対し、肯定的な回答をする生徒の割合を前年度より増やす。</p>	A
<p>取組内容⑨【基本的な方向2 豊かな心の育成】</p> <p>芸術や伝統文化に触れるような体験学習を、各学年それぞれ2回以上実施する。</p> <p>[指標] 体験後の校内アンケートにおける「いろいろな国や地域の文化や伝統などを学ぶことは大切である」の項目に対し、肯定的な回答をする生徒の割合を前年度より増やす。</p>	B
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
<p>取組内容① 1学期、2学期の教育相談、学期末懇談、学期ごとのアンケート等を予定通り実施した。いじめの件数は3となっており、前年度（1）を上回っている。しかし、すべての事案で学年間で連携し問題解決に努めている。</p> <p>取組内容② 各学年で家庭との連携をとり、対応している。今年度の不登校生徒は29人であり、前年度の41人を下回っている。</p> <p>取組内容③ 「学校へ行くのが楽しい」「文化祭や体育大会などの学校行事や部活動に熱心に取り組んでいる」というアンケート項目では肯定的な回答が97%であった。前年度（94%）を上回っている。</p> <p>取組内容④ 毎月、全学年が生活指導点検、再点検を行っている。「学校の決まり、規則を守っている」というアンケート項目では肯定的な回答が96%であった。前年度（96%）と同じで高い水準を保っている。</p> <p>取組内容⑤ 1学期、1・2年生はLGBTQの当事者のお話を聞き、性の多様性について学んだ。 「学校では、人権の大切さについて学ぶ機会が多い」の項目に対し、肯定的な回答をする生徒の割合が、1年86%、2年94%、3年93%であった。</p> <p>取組内容⑥ 1年生は「大阪大空襲」について講師を招き平和について考え、2年生は「沖縄戦」、3年生は「田辺模範原爆」について学習した。3学年とも平和新聞を作成し、各学年の一部の作品は文化祭で展示を行った。</p>	

「学校では、命の大切さや社会のルールについて学ぶことが多い」の項目に対し、肯定的な回答をする生徒の割合が前年度（94％）より2年は増加したが、1年・3年では減少した。1年89％、2年96％、3年93％。

取組内容⑦
3年進路学習、2年職業体験を中心に、1年は文化祭の作品で「なりたい自分探し」を行いキャリア教育を進めている。校内アンケートの「自分には良いところがある（74％→73％）」「将来のことや生き方について考えている（71％→68％）」で昨年より肯定的な回答をする生徒が減少している。

取組内容⑧
「事件や事故、災害が発生した時、どうしたらよいかわかっている。」の項目が前年度（76％）から+9ポイントで87％であった。年2回の避難訓練の他にも1年生で防災学習を実施するなど、充実した内容を取り組めた。

取組内容⑨
全学年による芸術鑑賞を11月に行う。1年は11月の校外学習で大泉緑地に行き、文化や伝統について学んだ。また、2年は3学期に校外学習へ行き、実施する予定である。3年は修学旅行で四国へ行き、ハーバリウムやドラゴンカヌー、カヤックなどを体験した。

次年度への改善点

取組内容①
いじめの件数は「1」から「3」に増えているため、教職員でさらなる連携を図る。
また、来年以降も1学期、2学期教育相談、学年末懇談、学期ごとのアンケート等を実施する。

取組内容②
不登校の件数は「29人」で前年度より減少しているが、さらに学校へ来る生徒が増えるように各学年で家庭との連携をとる。
また、関係機関との連携を図る。

取組内容③
2学期のアンケートでは、前年度同様に高い水準を保っている。次年度も高い水準が保てるよう、どの行事にも力を入れ、子どもたちが夢中になれるような学校を目指す。

取組内容④
毎月、各学年で生活指導点検、再点検を行う。また、点検以外の普段の生活から、自らきまりや規則を守る習慣作りを身につけさせていく。

取組内容⑤
性の多様性、性教育(薬物乱用防止)など、各学年人権に関わる取り組みをおこない、人権意識を高めた。外部講師を招き、講話を聞いた。「学校では、人権の大切さについて学ぶ機会が多い」の項目に対し、肯定的な回答をする生徒の割合は1年生で90％を下回った。肯定的な回答をする生徒の割合を、各学年90％以上にするため取り組み内容を工夫して人権教育を行う必要がある。

取組内容⑥
各学年平和学習に取り組み、文化祭では平和新聞を作成して展示発表を行った。1年生は外部講師を招き平和について学習した。肯定的な回答をする生徒の割合を、各学年90％以上にするため取り組み内容を工夫して人権教育を行う必要がある。

取組内容⑦
来年度の2年の職業体験の取り組みを今後も進めていく。また将来を見据えた職業観や進路に対する意識を成長させる取り組みを今後も行っていきたい。

取組内容⑧
来年度も引き続き、積極的に防災意識を高めるとともに、実施訓練にも継続して取り組むなどの今後も災害について考える機会を多くとっていきたい。

取組内容⑨
来年度も予定通りに鑑賞行事が行えるよう、企画・準備を進めていく。また、文化や伝統に触れる体験や学ぶ機会を各学年で検討していく。

年度目標	達成状況																														
<p>【最重要目標2 未来を切り拓く学力・体力の向上】</p> <p>○校内調査における「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を40%以上にする。(50%) → 36.7%</p> <p>○中学生チャレンジテストにおける国語および数学の平均点の対府比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より0.01ポイント向上させる。(R6実施分 現2年国語0.97 数学1.01 現3年 国語0.87 数学1.01) →R7実施分 現2年 国語:未実施 数:未実施 現3年 国語:0.90 数:0.97)</p> <p>○令和7年度の中学校チャレンジテストにおける得点が府平均の7割に満たない生徒の割合を同一母集団と比較し、いずれの学年も前年度より2ポイント減少させる。(2年:未実施 3年:%)</p> <p>○大阪市英語力調査におけるCEFR A1 レベル相当以上の英語力を有する中学3年生の割合(4技能)を58.6%以上にする。(58.5%) → 43.5%</p> <p>○年度末の校内調査における「運動(体を動かす遊びを含む) やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する生徒の割合を48.9%以上にする。(48.8%) → 60.0%</p> <p>【学校園の年度目標】</p> <p>○校内アンケートの結果において、次の各項目について、肯定的な回答する生徒の割合を次のようにめざす。</p> <table border="0"> <tr> <td>・「自分で計画を立てて勉強をしている」</td> <td>65%以上</td> <td>(68%)</td> <td>→</td> <td>63%</td> </tr> <tr> <td>・「家庭学習(宿題、予習、復習)をしている」</td> <td>70%以上</td> <td>(72%)</td> <td>→</td> <td>67%</td> </tr> <tr> <td>・「授業の内容がよくわかる」「授業は楽しい」</td> <td>75%以上</td> <td>(79%)</td> <td>→</td> <td>79%</td> </tr> <tr> <td>・「朝食を毎日たべている」</td> <td>85%以上</td> <td>(85%)</td> <td>→</td> <td>88%</td> </tr> <tr> <td>・「毎日同じ位の時間に寝ている、起きている」</td> <td>70%以上</td> <td>(71%)</td> <td>→</td> <td>77%</td> </tr> <tr> <td>・「体力に自信がある」</td> <td>60%以上</td> <td>(49%)</td> <td>→</td> <td>52%</td> </tr> </table> <p>○20mシャトルランにおいて、各自記録を向上させる。</p> <p>○情報環境の整備に努め、一人一台端末の積極的活用を図り、生徒の学習意欲向上に繋げる。</p> <p>○理数教育においては、課題発見・解決力、論理的思考能力の育成を図る。</p> <p>○卒業時に50%以上の生徒が英検3級程度以上の英語力を有するように小中連携した英語教育を進める。(43.5%)</p> <p>○生徒一人ひとりが健康と食育に対し高い意識を持ち、健康の保持増進について考える力の育成をはかる。</p>	・「自分で計画を立てて勉強をしている」	65%以上	(68%)	→	63%	・「家庭学習(宿題、予習、復習)をしている」	70%以上	(72%)	→	67%	・「授業の内容がよくわかる」「授業は楽しい」	75%以上	(79%)	→	79%	・「朝食を毎日たべている」	85%以上	(85%)	→	88%	・「毎日同じ位の時間に寝ている、起きている」	70%以上	(71%)	→	77%	・「体力に自信がある」	60%以上	(49%)	→	52%	B
・「自分で計画を立てて勉強をしている」	65%以上	(68%)	→	63%																											
・「家庭学習(宿題、予習、復習)をしている」	70%以上	(72%)	→	67%																											
・「授業の内容がよくわかる」「授業は楽しい」	75%以上	(79%)	→	79%																											
・「朝食を毎日たべている」	85%以上	(85%)	→	88%																											
・「毎日同じ位の時間に寝ている、起きている」	70%以上	(71%)	→	77%																											
・「体力に自信がある」	60%以上	(49%)	→	52%																											

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】</p> <p>ICTの積極的な活用、習熟度別授業の効果的活用を通じて、よりわかりやすい授業をめざすとともに、生徒が主体的に学ぶ力を育成する。</p> <p>[指標] 1) 年度末生徒アンケートにおける「授業の内容がよくわかる。授業は楽しい」で肯定的な回答をする生徒の割合を前年度より向上させる。</p> <p>2) 令和7年度のチャレンジテストのすべての教科において、同一母集団を比較し、第Ⅳ区分(下位層25%)の生徒の割合を前年度より減少させる。</p>	B
<p>取組内容②【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】</p> <p>すべての教科において「主体的、対話的で深い学び」をめざし、それぞれの授業の中で思考させたり、話し合いをさせたり、発表させたりする場면을効果的に取り入れる。</p> <p>[指標] 令和7年度の全国学力・学習状況調査の思考力・判断力・表現力等に関する項目の平均正答率を、前年度より5ポイント増加させる。</p>	B
<p>取組内容③【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】</p> <p>授業の予習・復習、定期テスト対策・学力調査対策等に活用できる学習教材を作成、提供し、自主学習や家庭学習の習慣化を定着させる。また、放課後の補充学習、自主学習教室での学習支援を行う。</p> <p>[指標] 1) 定期テストで、5科合計平均200点以上の生徒の割合を、75%以上をめざす。</p> <p>2) 年度末の生徒アンケートにおける「自分で計画を立てて勉強している」「家庭学習(宿題、予習、復習)をしている」の項目に対し、肯定的な回答をする生徒の割合を前年度より向上させる。</p>	B
<p>取組内容④【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】</p> <p>全学年の理科の授業において、生徒実験・観察や演示実験や標本の観察等、実物に触れる授業を年間50回実施する。</p>	B

<p>[指標] 校内の生徒アンケートにおいて、「授業の内容がよくわかる。授業が楽しい」の項目に対し、肯定的に回答する生徒の割合を、70%以上をめざす。</p>	
<p>取組内容⑤【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】</p> <p>C-NETとのTT授業や授業の中でのコミュニケーション活動を通じ、英語力の向上に取り組む。また、デジタル教材を活用し、生徒が自身の学習を調整し、主体的に活動に向かう態度を養う。</p> <p>[指標] 1) 令和7年度の大阪市英語力調査の中学校卒業段階でのCEFR A1レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合を、55%以上にする。</p>	B
<p>取組内容⑥【基本的な方向5 健やかな体の育成】</p> <p>体力・運動能力向上に向けた持久力維持向上のために、ランニング・ダッシュの基礎的トレーニングに毎時間取り組む。</p> <p>[指標] 春・冬に20mシャトルランのテストを実施し、その結果を各学年内で比較し、3年生は35%以上、1・2年生男子は70%以上、女子は50%以上の生徒の記録を更新させる。</p>	B
<p>取組内容⑦【基本的な方向5 健やかな体の育成】</p> <p>生徒の体力・運動能力向上に向けて、毎授業で基礎的トレーニングを10分～15分間取り組む。</p> <p>[指標] 令和7年度の全国体力・運動能力、運動習慣調査において、特に50mと立ち幅とびの記録を、前年度より5ポイント増加させる。</p>	B
<p>取組内容⑧【基本的な方向5 健やかな体の育成】</p> <p>保健委員会の活動を通じて、教室の環境整備や校内の美化活動に取り組む。とくに、健康に関する劇に取り組み、校外の講習会に参加し、健康や食に関する関心を高める。</p> <p>[指標] 年度末の生徒アンケートにおける「清掃活動をまじめに取り組んでいる」「朝食を毎日食べている」の項目に対し、肯定的な回答をする生徒の割合を前年度より向上させる。</p>	A
<p>取組内容⑨【基本的な方向4 若手教員の指導力向上と校内研修の支援】</p> <p>教職員の資質、指導力の向上を目指し、校内研修会を充実させるとともに、全教員による校内研究授業を実施する。</p> <p>[指標] ICT機器活用研修を含め、年間6回の校内研修会を実施する。また、全教員による校内研究授業を2学期末までに一人1回以上実施する。</p>	B
<p>年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析</p>	
<p>取組内容① ICTの活用や分割授業などを行い、わかりやすい授業をめざしている。2学期末のアンケートの「授業の内容は、よくわかる。授業は楽しい(74%→79%)」の項目の肯定的な割合は昨年より向上している。チャレンジテストにおいては、全教科では</p> <p>取組内容② 全国学テの国語「思考・判断・表現」に関する項目の平均正答率は46.9で、昨年より4%減少した。</p> <p>取組内容③ 2学期中間テストでの5科合計平均200点以上の生徒は、1年6.2%、2年7.4%、3年6.4%であった。生徒アンケートの「計画を立てて勉強(6.4%→6.3%)」「家庭学習(70%→67%)」の項目について肯定的な生徒が減少した。</p> <p>取組内容④ 各学年、生徒実験及び演示実験を効果的に取り入れることができた。また、アンケートの肯定的回答についても目標値を全学年で上回っており、2、3年生については目標値を10%以上も超える結果になった。</p> <p>取組内容⑤ C-NETと行う授業ではコミュニケーション活動を2週に1回行うことができた。本年度の大阪市英語力調査の中学校卒業段階でのCEFR A1レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合が3年生43.5%と指標の55%を上回ることができなかった。</p> <p>取組内容⑥ 持久力強化のため、特に水泳では技術練習と併せて、長い距離を泳ぐ練習を多く取り入れ、心肺機能を高める運動に取り組んだ。</p> <p>取組内容⑦ 毎時間授業の一環として腹筋・背筋・腕立て伏せ・バーピー・スクワットのトレーニングに取り組んでいる。1年生は1学期はついてこれない生徒もいたが、徐々にできるようになってきている。3年生は回数を増やすなど、学年によって強度も変えて行っている。</p>	

取組内容⑧

「清掃活動をまじめに取り組んでいる」の項目が前年度（87%）から+8ポイントで95%であった。「朝食を毎日食べている」の項目が前年度（82%）から+6ポイントで88%となった。校内では、給食の残食ボードに毎日記録し、残食に関して意識できるように取り組むことができた。

取組内容⑨

10月末までに5回の校内研修会を行った。（身なり決まり研修会、フラワー研修会、エピペン研修会、AED研修会、いじめに関する研修会）また、学力向上研修や、全教職員による研究授業も順次行っている。

次年度への改善点

取組内容①

各学年・各教科でICTを活用した教育活動の推進をさらに図っていく。また今年度は朝学習をデジタルドリルで行ったが、来年度に向けて具体的な内容をさらに検討していきたい。

取組内容②

各学年、話し合いやグループワーク、ペアワークなどを効果的に取り入れて、生徒のさらなる学力向上を図っていく。

取組内容③

定期テストにおける指標を全学年では達成できなかった。生徒の学力向上に向けてさらなる授業改善と、生徒一人ひとりの状況に応じたきめ細やかな取り組みを進めていかなければならない。なお、各学年で補充学習等行っているが、次年度も続けていく。

取組内容④

全学年で引き続き、生徒実験及び演示実験を効果的に取り入れ、確かな学力の向上に努める。

取組内容⑤

今後もC-NETと連携し、授業中でのコミュニケーション活動を通じた英語力の向上に取り組むとともに、デジタル教材を活用し、生徒が自身の学習を調整し、主体的に活動に向かう態度を養う。また、本年度は2年生も3年生と同じ英語力調査を受験したため、その結果を踏まえ、授業の改善を行う。

取組内容⑥

年間を通じて持久力アップの取り組みを行うことができた。シャトルランでは1、2年生においては目標である70%以上の生徒が前回の成績を上回った。3年生においては目標である50%を上回ることができなかった。部活動を引退し、運動習慣がなくなった生徒が増えたためだと考える。次年度以降も継続して、持久力アップの取り組みを続けていく。

取組内容⑦

全国体力・運動能力調査において、50m走と立ち幅跳びの値が大阪市の平均値を上回った。今後は男女ともに握力と長座体前屈が課題になってくる。

取組内容⑧

委員会活動や学年の取り組みなどで清掃や健康に関する取り組みを行い、給食などを通じて「食」について意識できるように、様々な角度から食育活動に取り組んでいきたい。

取組内容⑨

今年度もさまざまな研修会を実施できた。今後は研究授業について相互参観を充実させ、研究協議や意見交換の機会を増やすなど、さらに個々の授業の研鑽に努めていきたい。

年度目標	達成状況
<p>【学びを支える教育環境の充実】</p> <p>【ICT】 ○授業日において、生徒の8割以上が学習者端末を活用した日数が年間授業日の50%以上にする。(ただし、事務局が定める学校行事等ICT活用が適さない日数を除く) ○教員の生徒のICT活用を指導する能力に対して、「指導できる」と肯定的に回答する割合を80%以上にする。</p> <p>【働き方改革】 ○第2期「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準Iを満たす教員の割合を75%以上にする。</p> <p>学校園の年度目標</p> <p>【ICT】 ○年度末の校内調査の「日々の学校活動の中で学習者用端末を活用している」の項目について、「ほぼ毎日」と答える生徒の割合を、75%以上にする。(86%) → % ○デジタル教材を活用した学習(家庭学習を含む)を、週1回以上実施する。</p> <p>【働き方改革】 ○年次休暇を10日以上取得する教職員の割合を20%以上にする。73.0%(1月末まで) ○ゆとりの日を月1回設定し、実施する。 ○「直近2～6か月の時間外勤務の平均が月80時間を超えない」を満たす教職員の割合を60%以上にする。(84%) → 82%(12月まで)</p>	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容① 【基本的な方向6 教育DXの推進】</p> <p>一人一台の端末の環境を生かし、個別最適な学びと協働的な学びの実現に向けた取り組みを実施する。</p> <hr/> <p>[指標] 年度末の校内調査の「日々の授業の中で学習者用端末を活用して、学習をしている」の項目について、「ほぼ毎日」と答える生徒の割合を、75%以上にする。</p>	B
<p>取組内容② 【基本的な方向6 教育DXの推進】</p> <p>一人一台の端末の学習環境を生かすため、普通教室・特別教室に大型モニターかプロジェクタの固定設置を推進する</p> <hr/> <p>[指標] 年度末における普通教室・特別教室の大型モニター・プロジェクタの固定設置率を70%以上にする。</p>	A
<p>取組内容③ 【基本的な方向7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり】</p> <p>風通しの良い職場づくりに努め、教職員一人一人がそれぞれの特性を生かした教育活動を実施する。</p> <hr/> <p>[指標] 「直近2～6か月の時間外勤務の平均が月80時間を超えない」を満たす教職員の割合を60%以上にする。</p>	B
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
<p>取組内容① 登校すれば、心の天気の入力を行うようにした。朝学活にデジタルドリルを活用した学習を行った。各教科でICTを活用できるように、ICT支援員と連携した。「日々の授業の中で学習者用端末を活用して、学習をしている」の項目について、1年86%、2年92%、3年94%であった。</p> <p>取組内容② 普通教室で、プロジェクターとスクリーンの固定設置が完了した。新しいプロジェクターとHDMIケーブルを購入し、特別教室で使用できるように整備した。</p> <p>取組内容③ 「直近2～6か月の時間外勤務の平均が月80時間を超えない」を満たした教職員は82%であり指標をクリアしている。また年休10日以上取得した教職員は73%(1月末現在)で目標を大きく上回っている。各種特別休暇もおおむね副副副に取得できており、申請がしやすい職場環境にある。一方、1か月の時間外勤務が100時間を超える教員が複数名みられる。</p>	

次年度への改善点

取組内容①

デジタルドリルを朝学で使用し、心の天気の入力を習慣化する必要がある。タブレット端末を持ち帰り、連絡や教科の課題を配信しタブレット端末の活用を進めていく。

取組内容②

普通教室のプロジェクト・大型モニターの設置が完了した。しかし、特別教室においては、まだ未整備の教室がある。プロジェクター、スクリーン、HDMI ケーブルの破損や故障があり、維持管理が課題となっている。

取組内容③

部活動の在り方や部活動指導員の活用方法などについて啓発していく。とくに部活動指導員については、部活動顧問と一緒に指導している状況があり、部活動指導員事業の趣旨を踏まえ、顧問教員の長時間勤務の解消を図る。

また一部の教員にしかできない業務を減らし、チームとして複数名が対応できるようにすることで負担が偏らないよう業務内容の見直しを図る。